

第13回 令和7年5月1日（木）

「先日、1年生対象の進路講演会を見させていただきました」

福田先生の巧みな司会で始まり、良い雰囲気の中で先生方の大学決定までの経験をパネルディスカッションで披露していました。面白い講演会で、参考になった人も多かったのではないでしょうか。

さて私はというと法学部法律学科。なぜ？と聞かれると「一番何の職業にもなれるから。」俗にいう「つぶしがきく」という動機で、大学入学前に何をしようなんてまったく決まっていませんでした。

時代はバブル景気のころで、いまと同じ就職には困らない時代。企業は人が欲しくて内定を出した学生をほかの企業にとられないように旅行とかディズニーランドに連れて行ったりしていました。

有名な企業にもわりと楽に入れる時代だったので、わざわざ採用試験を受けて教員になるという選択は不思議がられました。当時教員採用試験の倍率はけっこう高くて、特に社会科は教育学部や史学科出身の猛者が受けていたからです。

教員になろうと思い始めたのは大学3年のころ。バスケットとか教えたいなと思いはじめて、きがつくと法学部は社会の教員免許しか取れないうえに社会系の授業もあまりない。そこで分厚い参考書を買って「日本史」を独学で勉強することにしました。

絶対教師になろうと決めたのはやっぱり教育実習かな。実習の最後に「何年かかっても必ず教師になります！」と生徒たちに約束をしてしまったのが決定打でした。

非常勤講師を1年勤めたのち、2年目に採用試験に合格しました。そのときは人生最初で最後ぐらい勉強しました。でも日本史の勉強とか興味深くて苦にならなかったことを思い出します。

人生は結構偶然の積み重ねだと思います。あとになって自分の頭の中で都合の良いストーリーを組み立てたりしますが、実はどっちに進むかわからないまま、選択を繰り返していくに至ることが多い気がします。

そこで高校生の皆さんや、保護者の皆さんにお願いしたいのは「失敗できるうちにたくさん失敗しておくこと」。特に高校生活でミスをしてもほとんどのことは取り返しがつきます。（犯罪とか取り返しのつかないことは絶対ダメですが・・・）

保護者目線で「これは失敗する」とわかっているとつい止めたくなってしまいますが、失敗こそ自分を知り、のちの財産になります。ものすごく貴重な経験なのです。